

中小企業景況調査結果(平成30年4~6月期)

中小企業の業況は、マイナス幅が拡大し悪化している。

山口商工会議所では、管内中小企業100社を対象に景況調査を実施し、このほど平成30年7~9月期実績と平成30年10~12月期見通しについての調査結果(回答数88社、回答率88%)をとりまとめた。本調査は、3ヶ月毎に年4回行っている。

全業種のDI値に見る業況判断動向を前期と比較すると、前期の▲15%から▲24%と低下した。業種別にみると、製造業は▲33%から▲14%と大幅上昇しており、来期も21%と大幅な上昇の見通しである。建設業は8%から▲13%と大幅に低下しており、来期も▲20%と低下傾向が続く見通しである。小売業は▲20%から▲31%と大幅に低下しており、来期は▲32%とほぼ横ばいの見込みである。サービス業は▲11%から▲28%と大幅に低下しており、来期は▲21%とやや上昇の見通しである。

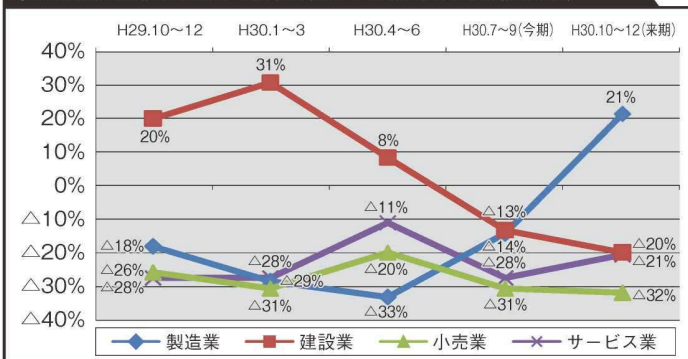
今回調査では、全業種で売上が低下傾向にあり、特に建設業・小売業では、売上・経常利益に大幅な低下傾向が見られた。

新規設備投資について、今期中に設備投資を実施した企業は全体の13%、来期設備投資を実施予定の企業は8%であった。経営上の問題点については、需要の停滞が製造業・建設業・小売業で上位に挙げられていた。また、消費者ニーズの変化への対応が小売業・サービス業で上位に挙げられている。製造業・サービス業では設備の老朽化が進んでいるが、投資に踏み込めない現状がうかがえる。

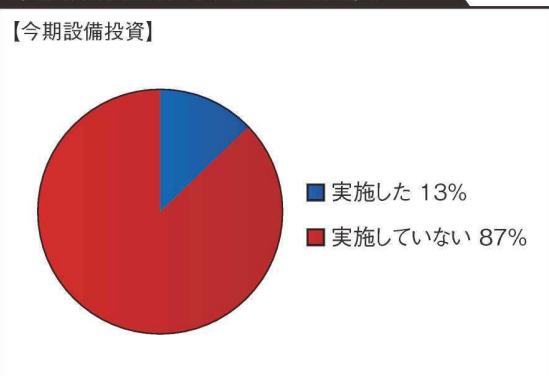
◆業況DI値(今期の状況)

	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	△24%	↘	△35%	↘	△20%	↘	1%	↘	△31%	↘	△7%	↘
製造業	△14%	↗	△29%	↘	△21%	↘	0%	↘	△14%	↗	△31%	↘
建設業	△13%	↘	△13%	↘	△27%	↘	△20%	↘	△40%	↘	20%	↗
小売業	△31%	↘	△48%	↘	△26%	↘	0%	↘	△41%	↘	0%	↗
サービス業	△28%	↘	△33%	↘	△7%	↘	21%	↘	△24%	↘	△14%	↘

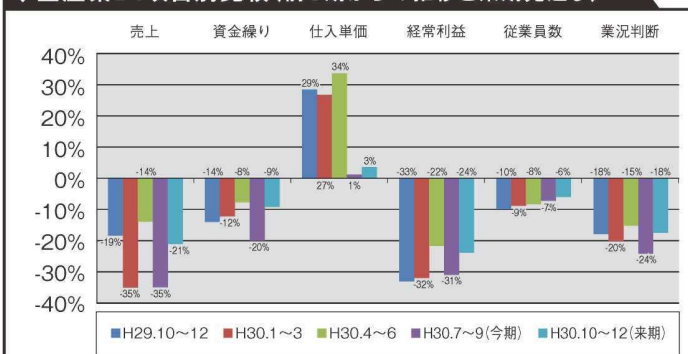
◆産業別業況判断DI(前3期からの推移と来期見通し)



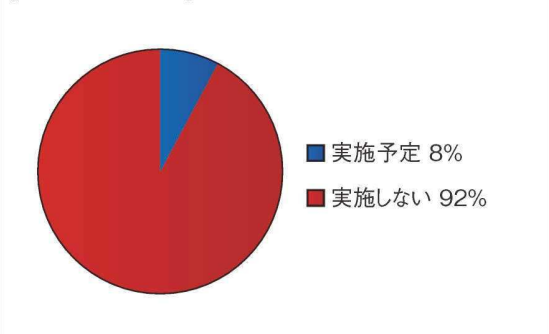
◆新規設備投資(今期実施・来期計画)



◆全産業DI項目別比較(前3期からの推移と来期見通し)



【来期設備投資計画】



◆経営上の問題点

	製造業	建設業	小売業	サービス業
1位	需要の停滞 25.8%	材料価格の上昇 15.8%	需要の停滞 21.5%	利用者ニーズの変化への対応 19.5%
2位	生産設備の不足・老朽化 12.9%	民間需要の停滞 13.2%	消費者ニーズの変化への対応 12.3%	店舗施設の狭隘・老朽化 11.7%
3位	人件費の増加 12.9%	熟練技術者の確保難 10.5%	販売単価の低下・上昇難 12.3%	新規参入業者の増加 10.4%

※DIとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(好転)企業割合から 減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。